

2026 年 9 月 30 日

【WANO 隔年総会 小早川総裁あいさつ（9 月 29 日）】

東京電力ホールディングス社長の小早川智明です。

WANO 総裁として、この特別な機会に皆様をお迎えできることを、大変光栄に思います。本総会のホストの一員として務めさせていただくにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

今回の総会を日本で開催することについては、特別な意義があると感じております。福島で 15 年前に起きた事故の経験は、機器の信頼性の向上だけでなく、想定外を想定外としないことの必要性を知らしめた教訓であり、国境を越えて共有されるべき知見となりました。

また、本総会の開催に合わせ、総会の前後に福島第一原子力発電所の視察を設定しております。参加の皆様には、実際に現地で事故の爪痕と廃炉作業の現場をご覧いただく機会がございます。実際の現場を直に見ることは、文献や報告書だけでは得られない理解を深め、我々が共有すべき教訓をより具体的に伝えるものと考えております。同じ過ちを犯さないために我々は国境を越えてお互い学び合って協働することが不可欠であり、本総会がその実践の一里塚となることを願っております。

また、WANO の千種 CEO とガーゴ議長が触れられた通り、現在我々はエネルギー供給の安定性、気候変動対策、そして経済成長という課題に直面しています。

原子力は安全性を最優先としつつ、低炭素で安定した電源として重要な役割を果たすことがこれまで以上に期待されております。

その中で新技術の導入や新しい原子力事業者の参入の波がきておりますが、技術や国が異なっても、我々は発電所を安全に運営する者同士として、お互い過去の教訓をしっかり学び、生かす必要があります。世界各地から集まってくださった皆様の知見と情熱が、この場を価値あるものにします。

今回の総会が参加者一人ひとりにとって有意義な学びと新たな協力の契機となり、世界の原子力安全性の向上に寄与することを心より期待しております。

以 上